

本会の最近10年のあゆみ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 芳朗 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025309

本会の最近 10 年のあゆみ

加 藤 芳 朗*

本会発足の当初は、磐田市に在住していたためか、運営面のお手伝いを免除していただいた。そんなこともあってあまり熱心な会員ではなかった。そのせいか、昭和 61 年度から会長をつとめるようご下命があった。その前に一度辞退申し上げたこともあって断りきれず、お引き受けすることになった。さいわい、同 63 年度までの 3 年間で大過なくつとめさせていただいた。これひとえに、会員諸氏のバックアップのおかげである。とりわけ認識を深めたのは、東・中・西各支部から選出された運営委員の皆さん（多くが小・中・高の教員）の献身的な努力で会が支えられている、ということである。

その原動力はどこにあるだろうか。皆さん地学がほんとうに好きだ、ということにつきると思う。……………好きな地学の内容を深めるために、自ら巡検に参加したり（ときには海外にも）、独自の研究に励んだりする。また地学の魅力を子どもたちに伝えるために、授業方法の検討、教材の選択に意をそそぐ。その成果が本会に反映して、研究発表、会誌への投稿に発展する。……………こうした思いにふけっているとき、ふと気付いて、ここ 10 年ほどの会誌「静岡地学」にそれらがどう現れているか調べてみることになった。下記の結果を得た。投稿者のほとんどが小・中・高勤務の会員である。その内容が上の感慨と合致することがはっきり分かる。

** 「静岡地学」50～66号（昭和59年～平成4年）に掲載された報文他の類別**

1. 個人研究	a. 地学一般をテーマ	39件
	b. 教育をテーマ	26件（授業関係 18、部活関係 8）
2. 現地研修の報告	a. 本会主催へ参加	31件
	b. その他へ自主参加	12件
3. 書評		7件
4. その他		7件

（注 毎号掲載される「地学散歩」「地学会のあゆみ」は除外）

この傾向は教職関係の会員が大勢を占める本会の特色であろう。また、毎年欠かさずに、年会、研究発表会、巡検会、会誌の発行を実行してきたエネルギーは本当にすばらしい。それが一般会員によって供給されてきたことは、本会が健全なあゆみをとっているあかしとみてよいだろう。今後もこの路線を継承し、さらなる発展を祈願して筆をおくこととする。

* 静岡英和女学院短期大学（元会長・名誉会員）